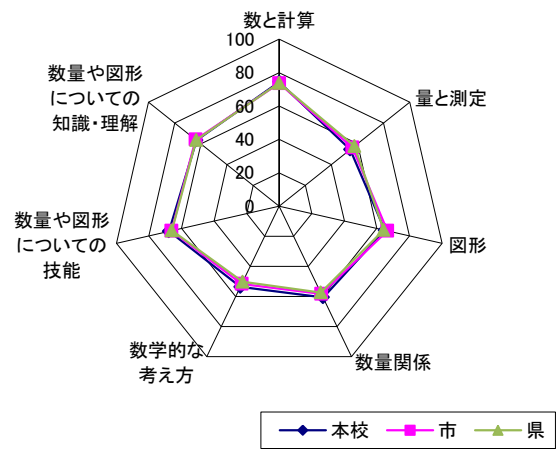


宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	73.6	73.7
	量と測定	54.4	56.2	57.7
	図形	64.9	66.5	64.2
	数量関係	60.7	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	53.7	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	67.7	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	63.3	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の正答率は74.4%と市・県の平均をやや上回っている。 ○内容別では、3位数÷2位数＝2位数(商に空位、余りあり)の設問が市・県の平均を10%以上上回っている ●与えられた数を四捨五入して千の位までの概数にする設問では、市の平均を6.9%、県の平均を7.8%下回っている。	・与えられた数を四捨五入して千の位までの概数にする設問では、四捨五入については理解している。しかし、千の位までの概数にするといった設問ではどの位を四捨五入するかということへの理解が不十分であるため、ドリルやプリントを利用して、繰り返し学習することで定着を図りたい。
量と測定	○本校の正答率は54.4%と市・県の平均を下回っているが、正方形のタイルの面積を求める設問では、市・県の平均を上回っている。 ●mをcmの単位で表す設問やおよその面積を推測する設問では、市・県の平均を5～10%下回っている。	・基本の単位量1cm ² 、1m ² の広さを実際に示し、視覚的に捉えるように工夫するとともに1m ² の換算が分からないときには、1mは100cmということから、100cm×100cmで求められることを指導する。
図形	○本校の正答率は64.9%と県の平均をやや上回っているが、市の平均を下回っている。直方体において、ある面と垂直な辺を選ぶ設問や残り一面を加えて、立方体の展開図を完成させる設問で、市・県の平均を上回っている。 ●与えられた2つの辺の続きを書いて、ひし形を完成する設問では、市の平均を9.1%、県の平均を7.1%下回っている。	・作図の問題は、実際にかくことを学習活動として、定規・コンパス・分度器の使用に慣れ、正確に使えるように指導する。 ・ひし形は対角線をもとに作図する方法が効果的であることから、各四角形における対角線の性質などについても関連性を考えながら合わせて指導し、効果を高めるようにする。
数量関係	○本校の正答率は60.7%と市・県の平均を上回っている。数量関係の場面を表したテープ図を選ぶ、図を用いて基準量を求める式を選ぶ、買い物の場面を1つの式に表しお釣りを求める設問では、市・県の平均を7%以上上回っている。 ●四則計算で()のある式の計算や二次元表を読み取り対象の欄の表す意味を説明する設問では、市・県の平均を下回っている。	・計算問題や文章題の答えを単に答える活動だけでなく、なぜそのような答えになるのか理由付けができるように発表の場を多く設けるようにする。 ・図などを使って友達同士の話し合いにより計算方法や計算の仕方を説明し合う活動を行うことで理解を深め、実態に合わせて文章題作成などの併用も考え全体的な底上げを図りたい。